

[育林第二研究室]A. 山岳奥地林の造林に関する研究 ： 4. 林内微気象に関する研究

汰木, 達郎
九州大学農学部附属演習林 : 助教授

<https://doi.org/10.15017/1456298>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和42年度, pp. 56-57, 1968. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :



3 広葉樹二次林の成長に関する研究

汰 木 達 郎

山岳奥地林の伐採がすすむにつれ、伐採跡地の更新が大きな問題となつてきており、いわゆる人工更新がこんなんでも天然更新にたよらざるをえない場所もかなり見られる。そこで当地方での天然更新に関する基礎的資料をうる目的からモミ、ツガの点在する落葉広葉樹林について調査をおこなっているが、42年度は主として焼畑跡地に成立している広葉樹二次林を調査した。

調査地 宮崎演習林17林班、高度1050m基岩黒色千枚岩質粘板岩、傾斜35°前後、北向き斜面

結 果 焼畑跡の二次林の成立には前生樹の影響がかなりみとめられ、早い時期に発生するものには前生樹の根株より発生したと考えられる萌芽性の強いシロモジや陽生のいわゆる先駆種であるヤマザクラ、ヤナギ、ノリウツギ等が多い。ガマズミ、クロモジ等はかなりたつてから発生している。その他のシデ類、ミズメ等については、はつきりした傾向はみとめられなかつた。なお結果の詳細については、日林九支論文集第21号22～24Pの67に発表している。

ところでこの調査で問題になつたのは樹令の推定であつた。広葉樹の場合、樹種によつては、偽年輪が多く樹令の推定がきわめてこんなんなものが多い。この場合の測定でも樹種によつてはかなり誤差が生じていることが考えられる。このようなことから肥大成長と年輪との関係を明らかにするために43年度はとくに樹令の推定がこんなんなミズメ、カエデ、ヒメシヤラ等の樹種について時期別の肥大成長を測定することになっている。

4 林内微気象に関する研究

汰 木 達 郎

林内の温湿度等については41年度より測定を始めているが、本年度より林内の光線量の測定を定期的に測定することにした。

林内光線量の測定

林内光線が樹種・疎密度のちがひによつて量的、質的にあるいは時期的にどのように変るかをあきらかにするために41年度に設定した林内微気象観測地において42年9月より測定を

おこなっている。

測定方法

積算照度計（東洋理化工業（株）製）を用いてスギ林（無間伐区・間伐区）・広葉樹林内の各定点において光量を紫外部（ $300 \sim 400 \mu$ ）・可視部（ $400 \sim 700 \mu$ ）・赤外部（ $700 \sim 1200 \mu$ ）に分けて測定をおこなっている。

測定時期

昭和42年9月より晴天の日をえらんで毎月1回、1年間の予定で測定をはじめた。

B スギザイノタマバエに関する研究

1 スギザイノタマバエ幼虫の季節的变化に関する調査

次 木 達 郎

場所・調査方法は前年度に同じ。

本調査は40年6月より開始したもので、下表は前年度の報告書に引続き調査した結果である。調査は今後さらに続行する予定である。

調査月日	幼虫 (赤色)	幼虫 (白色)	幼虫 (死虫)	サナギ	ヌケガラ	成虫	卵	計
昭41. 10. 6	47	53	-	-	-	-	-	100
10. 26	75	194	-	-	2	-	-	271
11. 11	57	55	-	-	10	-	-	122
11. 26	79	137	-	-	8	-	-	224
12. 14	57	15	-	-	15	-	-	87
12. 24	77	42	-	-	-	-	-	119
昭42. 1. 16	152	52	-	-	18	-	-	222
2. 16	104	35	-	-	6	-	-	145
3. 15	116	10	-	-	9	-	-	135